

巻頭論文

# 明治後期における逓信省から皇室博物館への 切手類の寄贈

田良島 哲

## 1 はじめに

東京国立博物館（以下「東博」という）には19世紀末以降、諸外国や植民地政府が発行していた郵便切手類が多数所蔵されている。これらは万国郵便連合から加盟各国政府に回付された見本としての切手の一部であり、1978年に刊行された『東京国立博物館収蔵品目録 金工・刀剣・陶磁器・染織・漆工』には、かなりのページを取って一件毎の目録が掲載されている。しかし、古美術を中心とする現在の東博の展示体系の中には常設的に位置づけられていないため、一般の目にふれる機会はほとんどない。近年では2005年にこれらの切手を紹介する展示が行われ、その図録『万国郵便切手：東京国立博物館所蔵』に一部の切手の図版が掲載されているが<sup>(1)</sup>、この膨大な数の切手がどのようにして東博のコレクションの一部となったかについては、深く言及されてはいない。

小稿は、明治時代後期に始まった逓信省から当時の帝国博物館（後の東京皇室博物館）への郵便切手類の寄贈の実態に関する基本的な史料の所在状況とその内容の一半を簡単に紹介し、今後の研究の参考にしようとするものである。

## 2 皇室博物館への切手類の寄贈の始まり

逓信省から当時の帝国博物館（1900年以降は東京皇室博物館。以下「博物館」という）に外国郵便切手類の寄贈が始まったのは、1898年（明治31）のことである。博物館で作品や資料を館に受け入れた際に作成された公文書類を編綴した『列品録』と題される一群の簿冊が今日まで伝来しており、これによって受け入れの経緯を知ることができる。以下、まずは初出である『明治三十一年 列品録』の記載によりながら、この年の寄贈について概観する。積文の字体は現行通用のものに改め、句読点を付した。

〔明治三十一年 列品録〕

逓信省郵務局ヨリ万国連合郵便切手類見本寄贈ニ付、左案ヲ以御回答相成可然哉、此段相伺候也。  
案

学芸上参考トシテ万国連合郵便切手類見本計百七拾参点、郵庶甲第二五四号ヲ以テ当館へ寄贈相成、正ニ致落手候。仍テ別紙領収証相添、此段及御回答候也。

1 「東京国立博物館 画像検索」<http://webarchives.tnm.jp/imgsearch/index>から「郵便切手」で検索することで、画像約500件を閲覧することが可能である。

明治三十一年 月 日  
帝国博物館  
逓信省郵務局 御中

追テ向後連合各国ヨリ回付ノ都度、御贈付相成候趣、致承知候  
(別紙)

領収証

一 万国連合郵便切手類見本

百七拾参点

但詳細別記之通り

右当館へ寄贈相成、正ニ領収候也。

明治三十一年 月 日

帝国博物館総長 男爵 九鬼隆一

逓信省郵務局 御中

万国連合郵便切手類見本目録 (目録本文略)

【添付文書】

郵庶甲第二五四号

学芸上御参考トシテ万国連合郵便切手類見本従来当局ニ保存候分別紙目録ノ通り寄贈候条御査収ノ上受領証御回付相成度此段申進候也

明治三十一年六月二十日

逓信省郵務局 (印)

帝国博物館御中

追テ向後連合各国ヨリ回付ノ都度御贈付可致候

【添付文書別紙】

万国連合郵便切手類見本目録 (本文略)

時系列で見ると、添付文書の逓信省郵務局発の文書が切手類とともに博物館に届いた送り状の正文であり、これに対する回答が前半の文書案である。この最初の寄贈時の目録は逓信省側、博物館側それぞれが確認のために作成し、本文書に添付されているが、173か国及び地域の3000点以上を集計した長大な表になるので、ここでは省略した。点数の少ない時(1899年)の

国名	切手	葉書	往復葉書	封緘葉書	封皮	帯封	其他
サーラレオン					—	—	
セイロン	—						
ストレート セツトルメント	—						
ギニヤ領 サリナム	五						
南亞弗利加会社	—						
センタボス	—					—	
計	九				—	二	

ものを一例としてあげよう（原文縦組み）。

そしてこの1898年の文書の中で「向後連合各国ヨリ回付ノ都度、御贈付相成候趣、致承知候」と確認されているとおり、その後は通信省に切手が届くたびに、博物館にも寄贈が続けられたのである。以下、通信省と博物館の文書の往復は、ほとんど同じ体裁をもって淡々と進んだので、1912（明治45年、大正元年）までの実例は、毎年の『列品録』に含まれる文書の件名目録を別表に示すに止めるが、明治期だけでも相当な数の切手類が送られたことが明らかである。

最初のうちは寄贈一件ごとに送付され文書番号が付されていたが、回数が多かったためであろうか、1902年には通信省側で一年分をまとめて送付する措置がとられた。しかし翌年にはもとに戻っている。一方、博物館側の文書整理も年によっては一年間に順次届いた文書を切手類の分のみまとめて一件として扱うこともあり、扱いは一定していない。

1902年には、郵便博物館が設置され寄贈の切手類の寄贈が郵便博物館から行われるようになった。そのため書類上においても発信者が通信省郵便博物館に変わっている。さらに1909年には郵便博物館が通信博物館となり、寄贈元も通信博物館となった。このあたりの経緯は文書上ほぼ正確に反映している。

### 3 寄贈手続きの実態

切手類は通信省から送り状を付して送付された。当初は官用の罫紙に手書きであったが、寄贈回数が増えたためか1902年から「今般万国連合郵便切手類左記之通到着ニ付御送付候条御查收之上領収証御差越相成度候也」という本文を活字印刷した罫紙に替わった。もっとも同年には差し出し元が郵便博物館となったため、同年中の送り状では「郵務課」を抹消して「郵便博物館」と修正している。

「切手類」と呼ばれるものは文書に添付された表のとおり、切手、葉書、往復葉書、封緘葉書、封皮、帯封（帯紙）、其他の7種に分類整理されており、これは明治期を通じて変わらない。切手類を受け取った博物館では、まず内容のチェックを行った。小さな切手が多数届くので、細かい作業となる。送付時に間違いが起こることもあったらしく、「数量相違等ノ件ニ付問合候処、實際ニ基キ領収証送付候様、郵務課ヨリ電話ヲ以テ通知有之候也」（明治三十三年 列品録 第十六号）というやりとりが博物館と通信省の間で時々発生した。コミュニケーションを所管する官庁らしく、この時点ですでに電話連絡であることは興味深い。

チェックの結果生じた訂正などは、鉛筆書きで一覧表に書き込まれた。員数はもちろんであるが、聞き慣れない外国の地名については正確を期するためであろう、博物館では原綴りの確認まで行っている。

また、切手に記載されている通貨単位がよくわからないことがあったと見えて、博物館から通信省に問い合わせがあり、通信省では「切手銭名ノ義ハ外務省発行通商彙纂ニ時々掲載有之候」（明治三十四年 列品録 第五号）と回答している。『通商彙纂』は外務省が在外領事館からの主として産業、貿易に関する報告をまとめた定期刊行物で、外国とのチャンネルの少なかった当時は貴重な情報であった。

受贈した切手類のうち、切手は取り扱いの便宜を図るため、専用の台紙に貼付して保管された。現在に伝来している形態である。

※小論は、二〇一四年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)「博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究」(研究代表者:白井克也)

の研究成果の一部である。

## 切手類寄贈関連文書リスト

\*本表は1898年（明治31）から1912年（明治45・大正元）までの『列品録』に含まれる通信省から東京帝室博物館への切手類の寄贈に関する文書の件名リストである。

\*名称は各簿冊の目次によったが、一年分を一括している案件は、個別の起案について枝番号を付し、通信省側のものと見られる文書番号と発信の日付を記載した。

館史資料389号 帝国博物館 明治三十一年 列品録	
第32号	万国連合郵便切手類見本百七十三点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第41号	万国連合郵便切手類見本十一点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第61号	万国連合郵便切手類見本九点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
館史資料390号 帝国博物館 明治三十二年 列品録	
第14号	万国連合郵便切手類見本六点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第15号	万国連合郵便切手類見本十点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第25号	万国連合郵便切手類見本六点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第26号	万国連合郵便切手類見本十一点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第28号	万国連合郵便切手類見本十二点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第33号	万国連合郵便切手類見本九点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第34号	万国連合郵便切手類見本五点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第35号	万国連合郵便切手類見本四点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第56号	万国連合郵便切手類見本二十七点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第57号	万国連合郵便切手類見本五点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第69号	万国連合郵便切手類見本十点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第70号	万国連合郵便切手類見本十点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
392号 帝国博物館 明治三十三年 列品録 二	
第5号	万国連合郵便切手類見本四点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第7号	万国連合郵便切手類見本十二点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第20号	万国連合郵便切手類見本八点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第26号	万国連合郵便切手類見本十四点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第30号	万国連合郵便切手類見本十点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第38号	万国連合郵便切手類見本四点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第49号	万国連合郵便切手類見本六点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
館史資料393号 帝国博物館 明治三十三年 列品録 三	
第2号	万国連合郵便切手類見本九点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第16号	万国連合郵便切手類見本三十九点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第19号	万国連合郵便切手類見本五点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第24号	万国連合郵便切手類見本五点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第29号	万国連合郵便切手類見本五点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第42号	万国連合郵便切手類見本十六点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
第49号	万国連合郵便切手類見本二点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件
館史資料394号 東京帝室博物館 明治三十四年 列品録	
第5号	万国連合郵便切手類見本二十点通信省通信局ヨリ寄贈ノ件

第55号	万国連合郵便切手類見本六十一通通信省通信局ヨリ寄贈ノ件	
第66号	万国連合郵便切手類見本十通通信省通信局ヨリ寄贈ノ件	
<b>館史資料396号 東京帝室博物館 明治三十五年 列品録 二</b>		
第57号	万国連合郵便切手類見本通信省通信局ヨリ寄贈ノ件	
<b>館史資料397号 東京帝室博物館 明治三十六年 列品録</b>		
第1号	万国郵便連合加盟二十五年祝典記念志巻冊外一点通信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
第84号	万国連合郵便切手類見本通信省通信局ヨリ寄贈ノ件 (1年分を1件に合綴)	
1	(通信省側番号: 426, 427, 428, 431号)	1月15日
2	(通信省側番号: 433号)	1月17日
3	(通信省側番号: 435, 436, 437, 440, 444, 449号)	3月7日
4	(通信省側番号: 450, 451, 452号)	4月9日
5	(通信省側番号: 457, 460号)	4月30日
6	(通信省側番号: 465号)	5月28日
7	(通信省側番号: 468, 469, 470号)	6月16日
8	(通信省側番号: 473, 474号)	7月4日
9	(通信省側番号: 476, 477号)	7月25日
10	(通信省側番号: 478, 479, 480号)	8月18日
11	(通信省側番号: 485, 487, 488号)	9月5日
12	(通信省側番号: 489, 491号)	10月5日
13	(通信省側番号: 494, 496号)	11月13日
14	(通信省側番号: 500, 501号)	12月11日
15	(通信省側番号: 504号)	12月22日
<b>館史資料398号 東京帝室博物館 明治三十七年 列品録</b>		
第12号	万国連合郵便切手類見本十一通通信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
第20号	万国連合郵便切手類見本二十二通通信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
第43号	万国連合郵便切手類見本十一通通信省通信局郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
第76号	万国連合郵便切手類見本四十二通通信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
第87号	万国連合郵便切手類見本十四通通信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
<b>館史資料399号 東京帝室博物館 明治三十八年 列品録</b>		
第98号	万国連合郵便切手類見本七百三十二枚通信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件 (1年分を1件に合綴)	
1	(通信省側番号: 540, 541, 572, 573, 574号)	1月28日
2	(通信省側番号: 577, 578, 580, 592, 593, 728, 729号)	3月22日
3	(通信省側番号: 595号)	4月18日
4	(通信省側番号: 596, 599, 602号)	5月10日
5	(通信省側番号: 605号)	5月29日
6	(通信省側番号: 608号)	6月5日
7	(通信省側番号: 609, 614号)	6月28日
8	(通信省側番号: 623, 631号)	8月8日
9	(通信省側番号: 627, 629, 639号)	8月24日
10	(通信省側番号: 643, 650, 657号)	9月20日
11	(通信省側番号: 663, 667, 670号)	10月26日
12	(通信省側番号: 686, 688, 696号)	11月24日
13	(通信省側番号: 684, 702, 707号)	12月19日

館史資料400号 東京皇室博物館 明治三十九年 列品録		
第5号	韓国郵便切手帖吉部逓信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
第12号	逓信省ニ於テ発行ノ紀念絵葉書類寄贈方同省通信局へ依頼並万国連合二十五年祝典紀念絵葉書外八点受納ノ件	
第61号	万国連合郵便切手類見本逓信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件（1年分を1件に合綴）	
1	(逓信省側番号：723号)	2月8日
	(逓信省側番号：741号)	3月26日
	(逓信省側番号：774号)	4月10日
	(逓信省側番号：788号)	4月24日
	(逓信省側番号：799号)	5月8日
	(逓信省側番号：807号)	6月7日
	(逓信省側番号：820号)	6月13日
	(国内切手、葉書等)	7月4日
	(逓信省側番号：826, 832, 838号)	7月23日
	(逓信省側番号：845号)	8月11日
	(逓信省側番号：858号)	8月26日
	(逓信省側番号：863号)	9月25日
	(逓信省側番号：880号)	10月11日
館史資料401号 東京皇室博物館 明治四十年 列品録		
第1号	万国連合郵便切手類見本四十一枚逓信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
第15号	万国連合郵便切手類見本六十一枚逓信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
第20号	万国連合郵便切手類見本四十五枚逓信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
第27号	万国連合郵便切手類見本九十六枚逓信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
第47号	万国連合郵便切手類見本百二十六枚逓信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
第65号	万国連合郵便切手類見本二百六十三枚逓信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
第75号	六銭切手見本及国際返信切手東京、京都及奈良ノ各博物館へ逓信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
館史資料402号 東京皇室博物館 明治四十一年 列品録 一		
第29号	万国連合郵便切手類見本九十五枚逓信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
館史資料403号 東京皇室博物館 明治四十一年 列品録 二		
第5号	万国連合郵便切手類見本二百二十枚逓信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
第54号	万国連合郵便切手類見本三百四十枚逓信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
第58号	米艦隊歓迎紀念絵葉書東京、京都及奈良博物館へ逓信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
第89号	万国連合郵便切手類見本二百七十五枚逓信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
館史資料404号 東京皇室博物館 明治四十二年 列品録		
第83号	万国連合郵便切手類見本四百六十四枚逓信省郵便博物館ヨリ寄贈ノ件	
館史資料405号 東京皇室博物館 明治四十三年 列品録		
第51号	万国連合郵便切手類見本百四十四枚逓信省逓信博物館ヨリ寄贈ノ件	
第106号	万国連合郵便切手類見本四百三枚逓信省逓信博物館ヨリ寄贈ノ件	
第127号	万国連合郵便切手類見本五十四枚逓信省逓信博物館ヨリ寄贈ノ件	
館史資料406号 東京皇室博物館 明治四十四年 列品録		
第11号	万国連合郵便切手類見本八十一枚逓信省逓信博物館ヨリ寄贈ノ件	
第15号	万国連合郵便切手類見本二十七枚逓信省逓信博物館ヨリ寄贈ノ件	

第29号	逋信省逋信博物館ヨリ寄贈ノ万国連合郵便切手類見本百五十五枚列品ニ組入ノ件	
第51号	逋信省逋信博物館ヨリ寄贈ノ万国連合郵便切手類見本九十五枚列品ニ組入ノ件	
第93号	万国連合郵便切手類見本百三十枚逋信省逋信博物館ヨリ寄贈ニ付歴史部列品ニ編入ノ件	
第102号	万国連合郵便切手類見本百十枚逋信省逋信博物館ヨリ寄贈ニ付列品ニ組入ノ件	
第131号	万国連合郵便切手類見本八十枚逋信省逋信博物館ヨリ寄贈ニ付列品ニ組入ノ件	
第154号	万国連合郵便切手類見本百六十四枚逋信省逋信博物館ヨリ寄贈ニ付列品ニ組入ノ件	
館史資料407号 東京帝室博物館 明治四十五年・大正元年 列品録 一		
第17号	万国連合郵便切手類見本二百五十九枚逋信省逋信博物館ヨリ寄贈ニ付列品ニ組入ノ件	
第41号	万国連合郵便切手類百十四枚を逋信省逋信博物館ヨリ、史料絵はかき六枚を東京帝国大学史料編纂掛ヨリ寄贈ニ付列品へ組入ノ件	
第75号	万国連合郵便切手類見本二百二十二枚逋信省逋信博物館ヨリ寄贈ニ付列品ニ組入ノ件	
第98号	万国連合郵便切手類見本五十五点逋信省逋信博物館ヨリ寄贈ニ付列品ニ組入ノ件	

(たらしま さとし 東京国立博物館 学芸研究部 調査研究課長)